

第4章 遺物

本章では、東山田遺跡第2次調査で出土した遺物のうち、掘立柱建物出土の遺物を、出土した遺構ごとに報告する。大半は建物を構成する柱穴からの出土だが、遺構の検出時や溝などといった付属すると判断した遺構からの出土遺物がある。掲載した遺物は、第100図1～第102図65に示した65点である。掲載数の多い順に種別をあげると、須恵器が31点、土師器が29点、縄文土器が3点、石器が1点、かわらが1点となる。この数値は実測した個体の掲載数であるため、各種別の実際の出土比率をそのまま示すものではないが、須恵器の出土率が高いのが特徴的である。土器のほとんどは破片であり、同一個体を別図として示していることがあり得る。なお、前章で報告した柱列については、実測すべきと判断した出土遺物はなかった。

8号掘立柱建物 1の土師器環を図示した。P1からの出土である。ロクロを使用しており、底部には回転糸切痕が残る。内面のヘラミガキは非常に明瞭である。

12号掘立柱建物 2の土師器環を図示した。P5からの出土である。ロクロを使用しており、底部の中心付近にのみ回転糸切痕が残る。

18号掘立柱建物 3の土師器環を図示した。P2からの出土である。ロクロを使用している。底部の全面にケズリおよびナデの調整が施されている。

22号掘立柱建物 4の土師器環を図示した。P2からの出土である。ロクロを使用している。内外面ともに調整は不明瞭である。

24号掘立柱建物 5の須恵器環を図示した。P2からの出土である。外面の器面が特に荒れており、調整は不明瞭だが、底部に微かに糸切痕が認められる。

25号掘立柱建物 6の須恵器環を図示した。遺構検出時の出土である。再酸化のため器面が荒れ、調整等は不明瞭であるが、底部は回転ヘラ切りのようなようである。

27号掘立柱建物 7の須恵器蓋を図示した。P14からの出土である。

35号掘立柱建物 8の土師器甕を図示した。建物建設前に施された造成部①1からの出土である。ロクロは使用していない。

42号掘立柱建物 9の須恵器鉢を図示した。P4からの出土である。復元口径が30cmを超える大形品

である。胎土は精製されておらず、白色砂粒を顕著に含む。

44号掘立柱建物 10の須恵器壺を图示した。P 8からの出土である。外面に淡緑色の自然釉が認められる。胎土や色調に認められる特徴から、大戸窯産の長頸壺と思われる。

45号掘立柱建物 11の土師器環を图示した。P 1からの出土である。ロクロを使用している。内面の調整は不明瞭である。

47号掘立柱建物 12の土師器環を图示した。P 7からの出土である。ロクロを使用している。内外面ともに調整は不明瞭である。

48号掘立柱建物 13の須恵器壺と14の須恵器甗を图示した。いずれもP 7からの出土である。13の外面は自然釉が顕著である。胎土や色調に認められる特徴から、大戸窯産の長頸壺と思われる。14は胎土が精製されておらず、白色砂粒を顕著に含む。外面に叩き目が認められる。

49号掘立柱建物 15のかわらけを图示した。P 4柱痕の検出面からの出土である。底部外面の回転糸切痕はナデ消されているようだが微かに認められる。

57号掘立柱建物 16の土師器環、17・18・19の須恵器環を图示した。16・19はP 2、18はP 1、17は付属溝1からの出土である。16はロクロを使用している。17は、口縁部と底部の破片があり、接合はしなかったが胎土や色調の類似から同一個体と判断した。18・19は底部に回転糸切痕が残る。19は胎土が精製されておらず、白色砂粒を顕著に含む。

58号掘立柱建物 20・21の須恵器環、22の須恵器円面硯を图示した。20はP 4、21はP 1、22はP 8からの出土である。21は底部に回転糸切痕が残る。22は外面に交差する斜沈線による模様が描かれる。胎土や色調に認められる特徴から、大戸窯産の円面硯と思われる。

59号掘立柱建物 23の土師器環を图示した。P 10からの出土である。ロクロを使用している。内面の調整は不明瞭である。

62号掘立柱建物 24・25の土師器環、26・27の土師器甕、28・29の須恵器環を图示した。24はP 13、25はP 5、26はP 12、27はP 10、28はP 5、29はP 9からの出土である。24・25はロクロを使用している。いずれも調整は不明瞭である。26・27はロクロを使用していない。27は胴部下半に顕著な粘土の固着・酸化が認められ、竈に据え付けた痕跡と思われる。29は器面の荒れが著しい。

63号掘立柱建物 30の土師器環、31の須恵器蓋、32の須恵器環、33の須恵器円面硯を图示した。30はP 5、

31はP 9、33はP 3からの出土で、32はP 6とP 9から出土した破片が接合した。30はロクロを使用している。32は底部に回転糸切痕が残る。底部外周には平行する筋が認められ、板目の圧痕と思われる。33は外面に斜沈線が一条のみ確認できるが、22と同様の模様であろう。胎土や色調に認められる特徴から、大戸窯産の円面硯と思われる。

64号掘立柱建物 34・35の土師器環、36の須恵器高台付環、37の須恵器壺を図示した。34・36はP10、35はP 6、37はP 5からの出土である。34はロクロを使用しておらず、丸底である。体部に段やくびれなどは形成されない。35はロクロを使用している。36は胎土が精製されておらず、白色砂粒を顕著に含み、内外面とも褐色を呈する。底部には微かに回転糸切痕が認められる。

65号掘立柱建物 38の土師器環、39の石甕を図示した。38はP 3、39はP 5からの出土である。38はロクロを使用している。39は茎がわずかに突出する形状である。石質は判然としないがガラス質で、重量は0.9gである。

66号掘立柱建物 40の須恵器を図示した。P 4からの出土である。口縁部もしくは高台とみられるが、小片のため器形は明確でない。端部が平坦になることから、高台と判断した。ただし、端部の反対側で強く屈曲しており、この部分が頸部とすれば口縁部となる。

69号掘立柱建物 41の土師器環を図示した。P 3からの出土である。ロクロを使用している。小片のため、径の復元はできなかった。内外面に漆とみられる付着物が認められる。外面は付着物が垂れるように付着しており、環をバレットのようにして使用したことが想定できる。

71号掘立柱建物 42の須恵器鉢を図示した。P 1からの出土である。復元口径が約36cmになる大形品である。胎土は精製されておらず、白色砂粒を顕著に含む。

72号掘立柱建物 43・44の土師器環、45の須恵器蓋、46の須恵器円面硯を図示した。43・45・46はP 5、44はP 7からの出土である。43・44はロクロを使用している。43は内外面が黒色処理されている。46は体部に縦長の方形になるとみられる孔があき、その孔と連動するように細い沈線を縦横に配置して模様を描く。胎土には白色砂粒が顕著に混入する。

73号掘立柱建物 47の須恵器を図示した。P 4からの出土である。底部のみの破片であり、器形は判然としない。底部には回転糸切痕が残る。内面は平滑にならず、ロクロ目が顕著に認められる。

74号掘立柱建物 48の土師器甕と49のミニチュア土器を図示した。48はP 3と358号土坑出土の破片が接合し、49はP 5からの出土である。48はロクロを使用している。49は胎土に繊維の顕著な混入がみられる。色調は表面が褐色であるのに対して中は灰色を呈し、断面がサンドイッチ状となる。

76号掘立柱建物 50の土師器環を図示した。P 2からの出土である。ロクロを使用している。底部に回転糸切痕が残り、底部外周は回転ヘラケズリされる。

79号掘立柱建物 51の土師器環、52・53の須恵器環を図示した。51はP 10、52はP 9からの出土で、53はP 1と80号掘立柱建物のP 1出土の破片が接合した。前章で報告したように、79・80号掘立柱建物は同一場所での建て替えもしくは重複である。51はロクロを使用している。52・53は底部に回転糸切痕が残る。53は底部外周が回転ヘラケズリされ、板目の圧痕と思われる平行する筋が部分的に認められる。

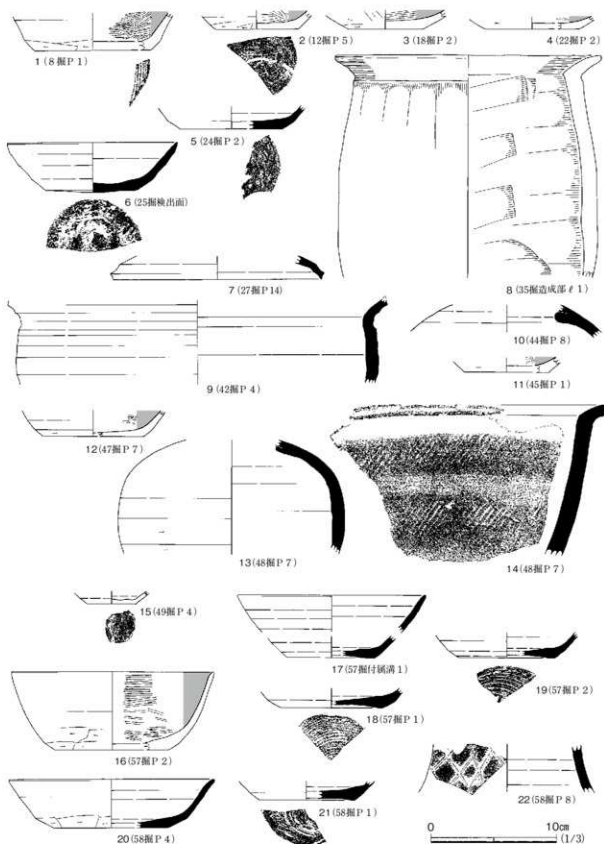
80号掘立柱建物 54・55の土師器環を図示した。54はP 9、55はP 1からの出土である。いずれもロクロを使用しており、内面の調整は不明瞭である。55は底部に回転糸切痕が残り、底部外周は回転ヘラケズリされる。

83号掘立柱建物 56の須恵器環を図示した。P 4からの出土である。胎土が精製されておらず、白色砂粒を顕著に含む。

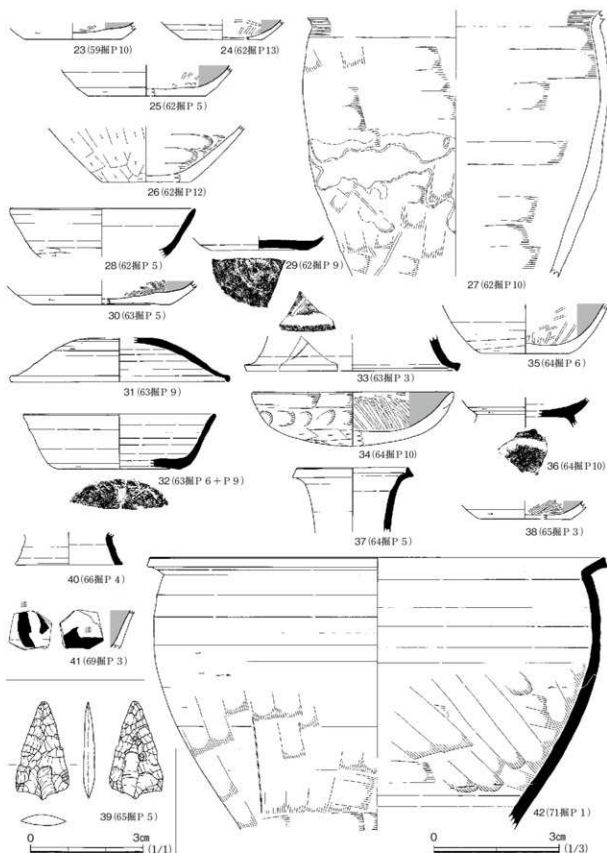
88号掘立柱建物 57の須恵器高台付環を図示した。同一場所建て替えられた建物のうち、Bとした古い建物のP 3からの出土である。高台を貼り付けやすくするために、底部の外周に2条の沈線を巡らせている。同様の工夫は60の土師器高台付環でも確認でき、須恵器と土師器で製作手順が共通する。

89号掘立柱建物 58の土師器環、59・60の土師器高台付環、61の須恵器蓋、62の須恵器環を図示した。58・62は検出面、59はP 9、60はP 2、61はP 1からの出土である。58～60はロクロを使用している。59・60は内外面ともヘラミガキと黒色処理が施され、60は外面の底部外周に2条の沈線を巡らせて高台が固着しやすくしている。同様の工夫は57の須恵器高台付環でも確認でき、土師器と須恵器で製作手順が共通する。62は底部に回転糸切痕が残る。

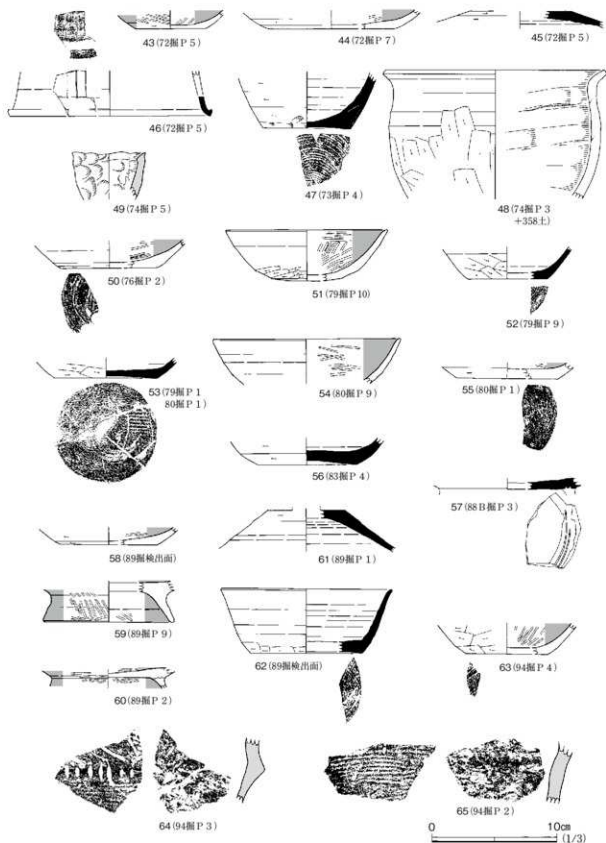
94号掘立柱建物 63の土師器環、64・65の縄文土器を図示した。63はP 4、64はP 3、65はP 2からの出土である。63はロクロを使用しており、底部に回転糸切痕が残る。内面の調整は不明瞭である。64・65は別の柱穴の出土だが、同一個体であろう。胎土に繊維を含み、色調は表面が淡褐色であるのに対して中は黒色を呈し、断面がサンドイッチ状となる。外面の条痕は明瞭であるが、内面は不明瞭である。64には、沈線で文様が描かれた口縁部文様帯と、文様帯の下部を画する刻みの施された隆線が認められる。



第100図 8～58号掘立柱建物出土遺物



第101図 59~71号掘立柱建物出土遺物



第102图 72~94号掘立柱建物出土遗物

第5章 まとめ

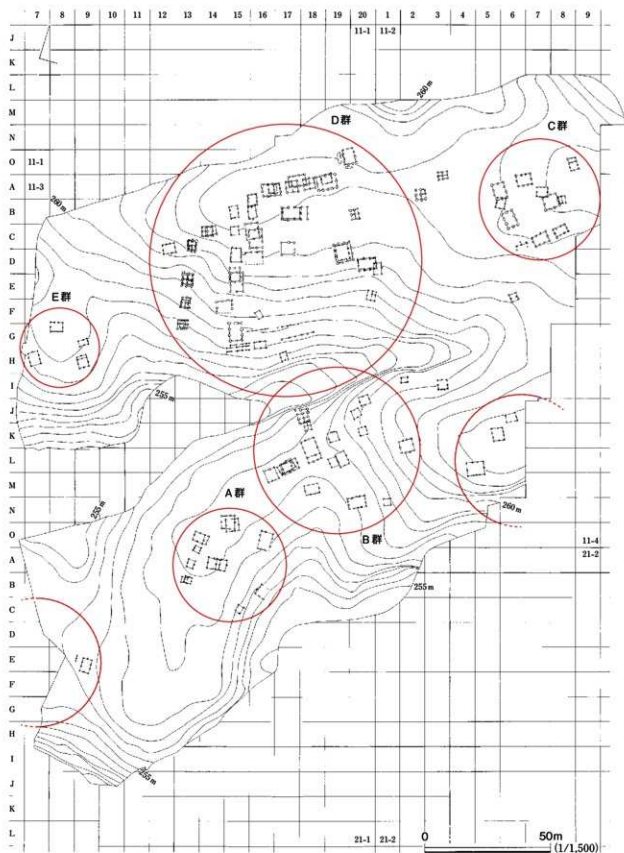
本報告書では、東山田遺跡第2次調査の掘立柱建物と柱列について報告した。調査では、掘立柱建物・柱列以外にも、竪穴建物や土坑といった多くの遺構を確認している。遺跡の評価は、それらの内容を踏まえてなされるべきなので、本章では、掘立柱建物と柱列の調査成果を整理していく過程で気付いた点を列記し、まとめとする。

まず第1点は、掘立柱建物と柱列はいくつかの群にグループ分けできそうなことである。あくまでもそれは、平面的な分布の主観的な認識に過ぎないが、第103図に示したように、7つのグループに分けられそうに見える。これらのうち、第2次調査区のなかで完結するとみられるグループは、A～E群とした5つである。各グループ内の掘立柱建物の多くは建物軸を揃える傾向にあり、一定の規制があったことをうかがわせる。各グループの占有面積を計測することは難しいが、各遺構群の範囲を、試しに円では把握してみると、その直径はA群が45m、B群が65m、C群が50m、D群が100m、E群が30mとなる。同図では掘立柱建物と柱列のみを示し、本来はこれと同時に併存したであろう竪穴建物や土坑などを省いている。そのため遺構群としては不完全だが、掘立柱建物と柱列のみを示したことによって、上記のグループの存在をより明確に認識することができた。

第2点は、推定した各グループに、占有面積の広狭や構成要素の違いといった相違点が認められることである。際立つのはD群で、他のグループより占有面積が格段に広く、倉庫と考えられる総柱構造の掘立柱建物を多く持ち、南面には塀もしくは柵とみられる柱列が設けられている。このような属性を持つD群は、特別な存在と評価できる。第1章で触れたように、その性格には2つの考え方が提示されている。D群を構成する掘立柱建物には、改修や建替が行なわれた事例が多く、2～3時期の変遷が想定できる。相対的に古いと判断した掘立柱建物には、火災に遭っている事例が少なからず認められる。

第3点は、柱間の数と建物の面積に、ある程度の相関が認められることである。ごく当たり前のことではあるが、柱間数が多くなるほど面積が大きくなる。2間2間で総柱の構造の掘立柱建物は、10～20㎡前後に規模が集中し、一定の規格性を見取れる。最も確認例が多い2間3間の掘立柱建物では、20～30㎡前後に規模のピークがある。2間4間、3間3間、3間4間と柱間数が多く、規模の大きい掘立柱建物は数が限られるため、特別な存在であったと予想できる。面積が40㎡を超える特に大規模な27・59・62・89号掘立柱建物のうち、27号掘立柱建物以外はD群に属す。27号掘立柱建物が属すB群も、D群に次ぐ占有面積を有しており、掘立柱建物の規模とグループの規模とは、相関する関係があると思われる。

最後に第4点として、遺物に関わる特徴をあげる。掘立柱建物から出土し、本報告書に掲載した遺物は65点である。このうち縄文土器・石器・かわらけを除く60点が、上記で触れた遺構群の時期を示すと考えられる。その60点は奈良時代後半から平安時代前期の土師器・須恵器で、平安時代前期のものが大半を占める。特徴的なのは須恵器の比率の高さであり、全体の半数以上の31点である。この31点には、22・33・46の円面硯を含む。3点の円面硯はすべてD群に属す掘立柱建物から出土しており、D群の性格を反映する遺物と評価できる。



第103図 第2次調査区の掘立柱建物と柱列の配置

第1表 掘立柱建物一覧

番号	柱間・構造	庇	平面	規模	面積	変遷	所属群	遺物	備考
8	2間3間		南北	3.5×5.4	18.9			1	1柱列付属
9	2間2間		正	2.55×2.6	6.63	14→9	A		
10	2間3間		正	5.15×5.25	27.0375	11→10	A		
11	2間2間		正	4.9×5.05	24.745	11→10	A		
12	2間2間		南北	3.6×4.45	16.02	13→12	A	2	
13	2間2間		正	4.35×4.45	19.3575	13→12	A		
14	1間1間		正	2.25×2.3	5.175		A		改修
15	1間2間		南北	2.7×3.0	8.1		A		
16	2間3間	東	東西	3.65×5.8	21.17		A		改修
17	1間2間		正	2.6×2.7	7.02		A		
18	1間2間カ		南北	2.4×2.7	6.48		A	3	
19	3間4間		南北	4.7×7.0	32.9		A		
20	2間3間カ		南北	4.1×4.5	18.45		A		
21	2間4間カ		東西	3.9×6.25	24.375	23→22→21	B		
22	2間2間		東西	3.6×4.35	15.66	23→22→21	B	4	
23	2間3間		東西	4.3×6.25	26.875	23→22→21	B		
24	2間2間総柱		東西	3.6×4.05	14.58	26→24	B	5	北に付属施設カ
25	2間2間カ		正	4.65×4.75	22.0875		B	6	
26	2間2間総柱		南北	2.75×3.55	9.7625		B		
27	3間4間		南北	5.5×8.75	48.125		B	7	南面床張カ
28	2間3間		東西	3.65×5.45	19.8925		B		
29	2間2間		東西	3.6×3.85	13.86		B		
30	1間2間		正	3.25×3.3	10.725		B		
31	2間2間		正	2.95×3.05	8.9975		B		
32	2間3間		南北	3.8×5.45	20.71	32 ? 36	B		改修・雨落溝
33	1間2間		正	3.7×3.8	14.06		B		
34	2間2間カ		正	3.65×3.7	13.505		Bカ		
35	3間4間		東西	4.4×6.75	29.7		B	8	改修・雨落溝・造成部
36	1間2間		南北	3.15×3.6	11.34	32 ? 36	B		
37	1間1間		正	2.7×2.7	7.29		B		
38	1間1間		東西	2.05×2.4	4.92		Bカ		
39	2間3間		東西	4.8×5.35	25.68		B		改修
40	2間3間		東西	5.3×6.6	34.98				
41	1間2間		東西	3.1×4.2	13.02				
42	2間3間		南北	4.4×5.05	22.22			9	
43	2間3間		東西	3.25×5.25	17.0625		C		
44	2間3間		東西	3.95×6.1	24.095		C	10	
45	2間3間		東西	3.7×4.45	16.465	45 ? 47		11	

番号	柱間・構造	庇	平面	規模	面積	変遷	所属群	遺物	備考
46	2間3間	北	南北	3.15×4.75	14.9625		C		
47	2間3間		東西	5.05×5.7	28.785	45・50・51?47	C	12	
48	2間3間		東西	4.3×5.75	24.725		C	13・14	
49	2間3間		南北	4.5×6.55	29.475		C	15	
50	1間1間		南北	1.6×2.85	4.56	51→50?47			
51	1間1間		正	2.8×2.9	8.12	47?51→50			
52	2間3間		南北	4.7×6.35	29.845	52?53	C		
53	2間2間		南北	3.55×4.3	15.265	52?53			
54	1間2間		正	2.9×2.95	8.555		Cカ		床張カ
55	2間2間総柱		正	3.8×3.85	14.63		Dカ		
56	2間2間総柱		東西	2.7×3.7	9.99		Dカ		
57	2間3間カ		南北	4.25×5.7	24.225		D	16~19	改修・付属溝
58	2間2間総柱		南北	3.0×3.9	11.7		D	20~22	改修
59	2間4間		東西	5.45×7.65	41.6925	61→59	D	23	
60	2間2間		南北	3.35×3.85	12.8975				北東隅小区画
61	2間2間		東西	3.6×4.0	14.4	61→59	D		改修
62	3間3間		南北	6.5×7.5	48.75	63→62	D	24~29	
63	3間3間		南北	5.1×6.2	31.62	63→62	D	30~33	
64	2間3間		東西	4.35×6.9	30.015	71・72→64カ	D	34~37	
65	2間2間		南北	3.05×3.55	10.8275	66→65	D	38・39	A案
	2間3間		東西	3.6×4.5	16.2			38~40	B案
66	2間3間	東	東西	4.55×7.0	31.85	66→65	D	40	A案
	2間2間		東西	4.5×4.75	21.375				B案
67	2間3間		南北	5.05×6.1	30.805	68→67カ	D		
68	2間3間		南北	5.15×7.15	36.8225	68→67カ	D		
69	2間3間		南北	3.6×4.2	15.12	70→69	D	41	
70	2間2間		南北	3.25×4.65	15.1125	70→69	D		
71	2間2間総柱		東西	4.25×4.6	19.55	71→64カ	D	42	
72	2間2間総柱		東西	4.3×4.55	19.565	72→64カ	D	43~46	
73	2間3間カ		東西	(4.4)×6.8	(29.92)		D	47	()は復元値
74	1間2間カ		東西	4.8×5.2	24.96		D	48・49	
75	1間1間		南北	2.15×2.9	6.235		D		
76	2間3間		南北	5.0×7.2	36.0		D	50	改修
77	2間2間		南北	2.75×3.3	9.075		D		改修
78	1間2間		南北	2.85×4.5	12.825	80→79→78	Dカ		
79	2間3間		東西	4.05×7.05	28.5525	80→79→78	D	51~53	
80	2間3間		東西	4.0×7.05	28.2	80→79→78	D	53~55	
81	2間3間		南北	3.35×4.8	16.08		D		
82	1間1間カ		正	3.2×3.2	10.24		D		
83	2間3間		南北	4.0×5.4	21.6	85→83	D	56	

番号	柱間・構造	庇	平面	規模	面積	変遷	所属群	遺物	備考
84	2間3間		南北	4.05×5.6	22.68		D		
85	2間3間		南北	5.15×7.4	38.11	85→83	D		
86	1間2間		東西	2.85×4.55	12.9675		D		改修カ
87	2間2間総柱		南北	3.2×4.0	12.8		D		建替
88	2間2間総柱		南北	3.95×4.5	17.775		D	57	建替
89	2間4間	東	東西	4.95×10.25	50.7375	90→89	D	58~62	
90	2間3間		東西	4.3×7.25	31.175	90→89	D		
91	2間2間総柱		東西	3.85×4.15	15.9775	98→91	D		
92	2間3間		東西	3.8×5.0	19.0		D		
93	2間2間総柱		南北	3.4×4.0	13.6	96→93	D		改修カ
94	2間2間総柱		正	3.0×3.1	9.3	94→95	D	63~65	
95	2間2間		南北	3.2×3.75	12.0	94→95	D		改修
96	1間2間		南北	2.9×3.1	8.99	96→93	D		
97	2間3間	北	南北	3.85×4.7	18.095		E		
98	1間2間		東西	3.3×4.15	13.695	98→91	D		
99	3間3間カ		東西	4.4×6.2	27.28		D		
100	2間2間カ		東西	2.2×3.65	8.03		E		
101	2間3間		東西	3.65×4.75	17.3375		E		
102	2間3間		南北	4.0×5.05	20.2		E		

注 (1) 柱間や規模・面積は庇を含む数値である。

(2) 規模の単位はm、面積の単位は㎡である。

(3) 変遷の「?」は新旧関係が不明なことを表す。

(4) 備考の「改修」は部分的な改修、「建替」は全面的な建替を表す。

第2表 掘立柱建物構造別規模分布

	～5㎡	～10㎡	～15㎡	～20㎡	～25㎡	～30㎡	～35㎡	～40㎡	～50㎡	～60㎡
1 間 1 間	38・50	14・37・ 51・75	82							
1 間 2 間		15・17・ 18・54・ 96	30・33・ 36・41・ 78・86・ 98		74					
2 間 2 間		9・31・ 77・100	29・34・ 60・61・ 65A・95	12・13・ 22・53・ 70	11・25・ 66B					
2 間 2 間 総柱		26・56・ 94	24・55・ 58・87・ 93	71・72・ 88・91						
2 間 3 間			46	8・20・ 28・43・ 45・65B・ 69・81・ 92・97・ 101	16・32・ 42・44・ 48・57・ 83・84・ 102	10・23・ 39・47・ 49・52・ 73・79・ 80	40・64・ 66A・67・ 90	68・76・ 85		
2 間 4 間					21				59	89
3 間 3 間						99	63		62	
3 間 4 間						35	19		27	

注 柱間および面積には庇を含む。





東方上空より見た第2次調査区



南方上空より見た第2次調査区



第2次調査区南側丘陵の遺構群



第2次調査区北側丘陵の掘立柱建物群（部分）



8号掘立柱建物



9号掘立柱建物



10号掘立柱建物



11号掘立柱建物



12号掘立柱建物



13号掘立柱建物



14号掘立柱建物



15号掘立柱建物



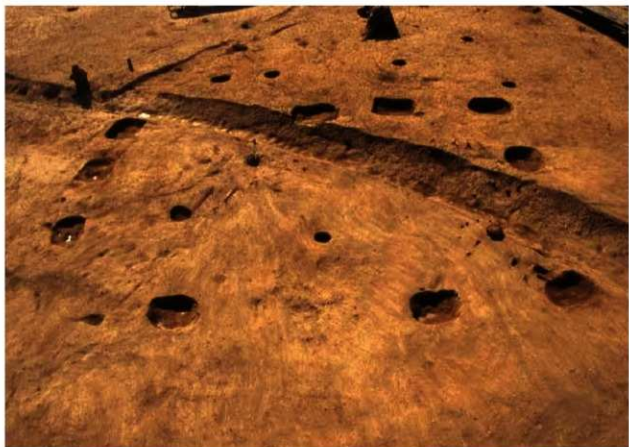
16号掘立柱建物



17号掘立柱建物



18号掘立柱建物



19号掘立柱建物



20号掘立柱建物



21号掘立柱建物



22号掘立柱建物



23号掘立柱建物



24号掘立柱建物



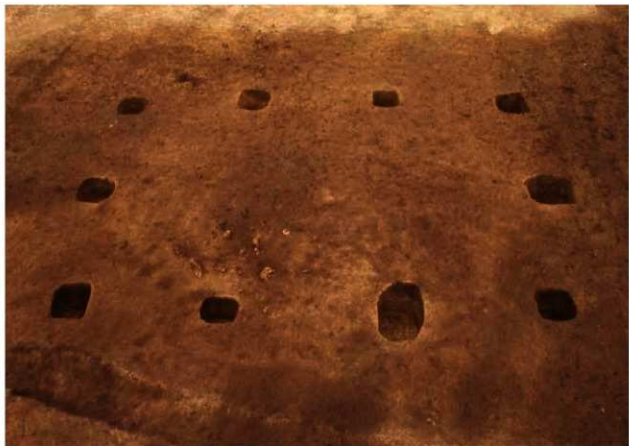
25号掘立柱建物



26号掘立柱建物



27号掘立柱建物



28号掘立柱建物



29号掘立柱建物



30号掘立柱建物



31号掘立柱建物



32号掘立柱建物



33号掘立柱建物



34号掘立柱建物



35号掘立柱建物



36号掘立柱建物



37号掘立柱建物



38号掘立柱建物



39号掘立柱建物



40号掘立柱建物



41号掘立柱建物



42号掘立柱建物



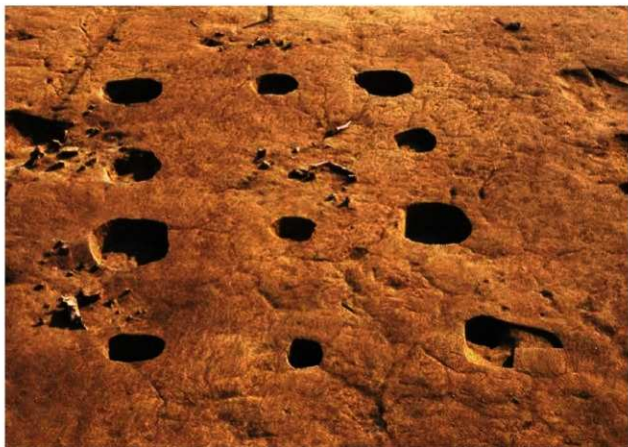
43号掘立柱建物



44号掘立柱建物



45号掘立柱建物



46号掘立柱建物



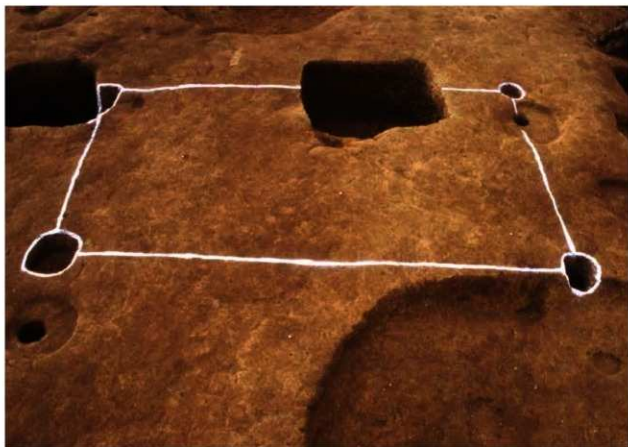
47号掘立柱建物



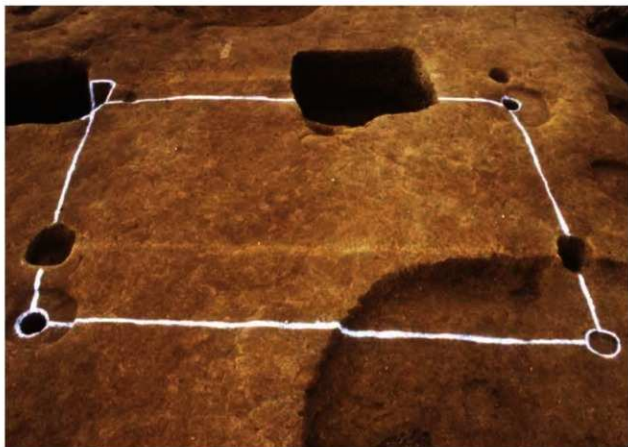
48号掘立柱建物



49号掘立柱建物



50号掘立柱建物



51号掘立柱建物



52号掘立柱建物



53号掘立柱建物



54号掘立柱建物



55号掘立柱建物



56号掘立柱建物



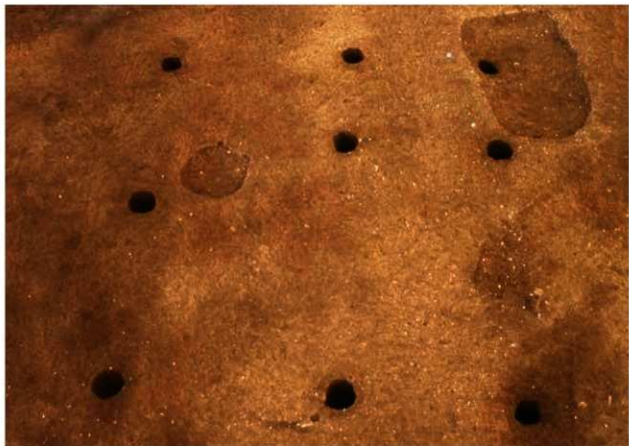
57号掘立柱建物



58号掘立柱建物



59号掘立柱建物



60号掘立柱建物



61号掘立柱建物



62·63号掘立柱建物



64号掘立柱建物



65号掘立柱建物



66号掘立柱建物



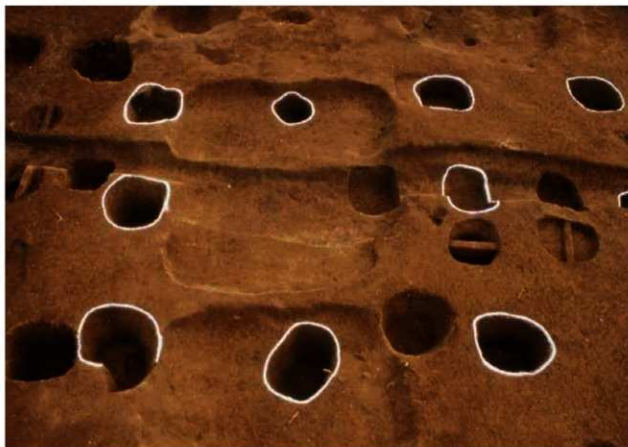
67·68号掘立柱建物



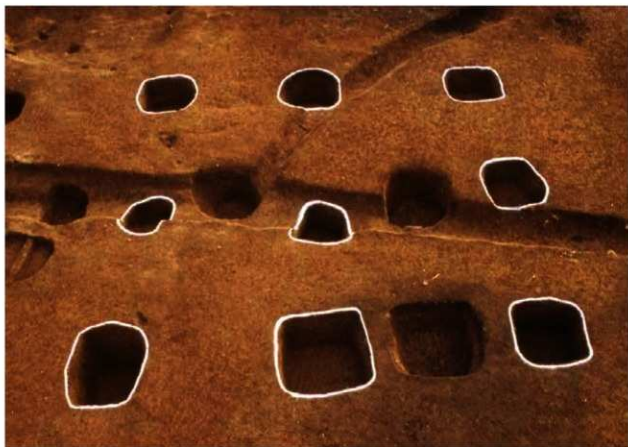
69号掘立柱建物



70号掘立柱建物



71号掘立柱建物



72号掘立柱建物



73号掘立柱建物



74号掘立柱建物



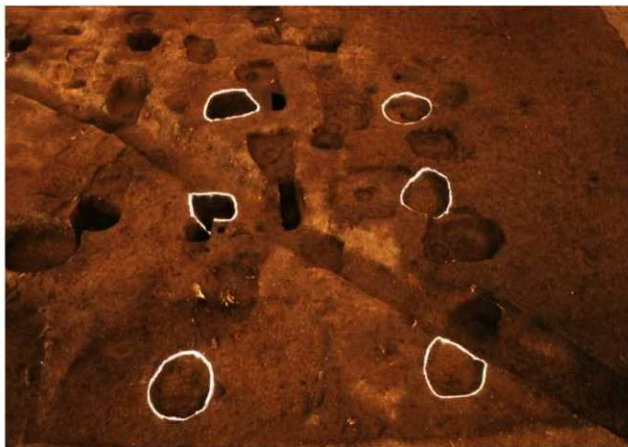
75号掘立柱建物



76号掘立柱建物



77号掘立柱建物



78号掘立柱建物



79号掘立柱建物



80号掘立柱建物



81号掘立柱建物



82号掘立柱建物



83号掘立柱建物



84号掘立柱建物



85号掘立柱建物



86号掘立柱建物



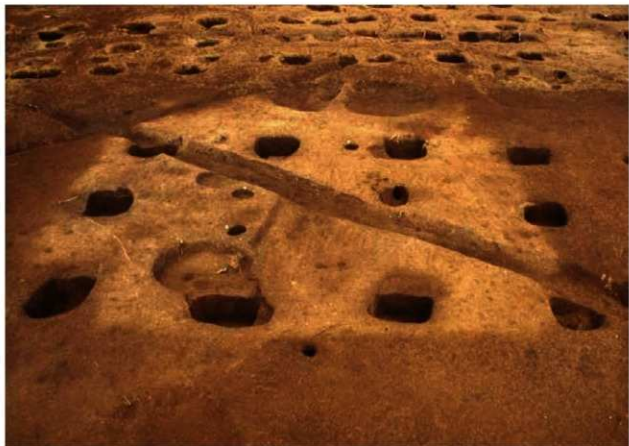
87号掘立柱建物



88号掘立柱建物



89号掘立柱建物



90号掘立柱建物



91号掘立柱建物



92号掘立柱建物



93号掘立柱建物



94·95号掘立柱建物



96号掘立柱建物



97号掘立柱建物



98号掘立柱建物



99号掘立柱建物



100号掘立柱建物



101号掘立柱建物



102号掘立柱建物



出土遺物

報 告 書 抄 録

書 名	考古資料整備活用業務 東山田遺跡 第2次発掘調査報告書 第1冊 掘立柱建物・柱列							
編 著 者	垣内和孝							
編 集 機 関	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター							
所 在 地	福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田 23 番							
発 行 機 関	郡山市教育委員会							
所 在 地	福島県郡山市朝日一丁目 23 番 7 号							
発行年月日	令和 7 年 (2025) 3 月 25 日							
所収遺跡名 (次数)	所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東山田遺跡 (第2次)	福島県郡山市田村町 東山一丁目	2036	1047	37° 20′ 14″	140° 25′ 8″	19940509 ～ 19950325	41,800 m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		収録遺構		収録遺物		特記事項
東山田遺跡 (第2次)	集落	奈良・平安時代		掘立柱建物・柱列		土師器・須恵器 (円面硯含む)・ 縄文土器 (早期)・石器・ かわらけ		
要 約	東山田遺跡第2次調査のうち、掘立柱建物と柱列を収録。							

考古資料整備活用業務

東 山 田 遺 跡

— 第2次発掘調査報告書 第1冊 掘立柱建物・柱例 —

令和 7 年 (2025) 3 月25日

編 集 公益財団法人郡山市文化・学び振興公社
文化財調査研究センター
〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番

発 行 郡 山 市 教 育 委 員 会
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号

印 刷 株 式 会 社 坂 本 印 刷 所
〒963-0551 福島県郡山市喜久田町菖蒲池14-26